

# 山武市橋梁長寿命化修繕計画



令和8年3月

山 武 市

## 目 次

1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景と目的 .....	1
2. 山武市の橋梁の現状 .....	2
3. 橋梁長寿命化修繕計画の基本方針 .....	3
4. 橋梁長寿命化修繕計画による効果 .....	4
5. 新技術等の活用及び維持管理費縮減に関する方針 .....	4
6. 橋梁長寿命化修繕計画に関する今後の取り組み .....	5

# 1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景と目的

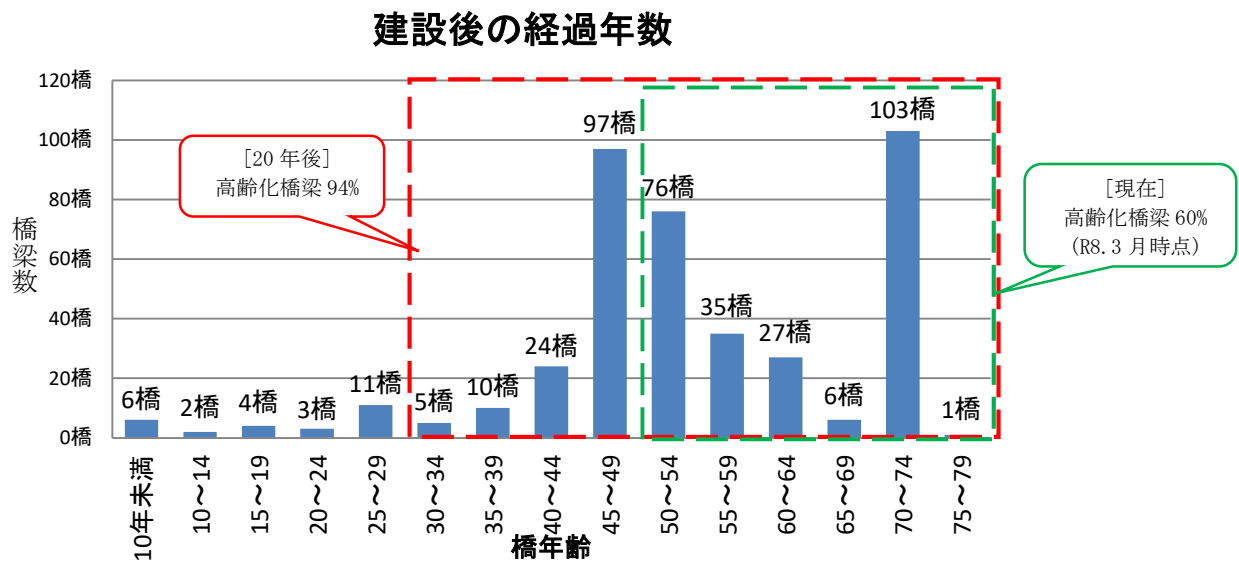
山武市が管理する道路橋においては、その多くが、高度経済成長期（1950年代後半～1970年代前半）、安定成長期（1970年代後半～1990年代前半）に集中的に建設されており、高齢橋の目安となる建設後50年を経過した橋梁は、令和8年3月時点では60%ですが、20年後には94%となり、橋梁の高齢化比率も今後更に高まっていきます。

この先、老朽化の進行により橋梁の維持修繕費の増大や、架け替え費用の一時的な集中により、財政負担の増加が予想されています。

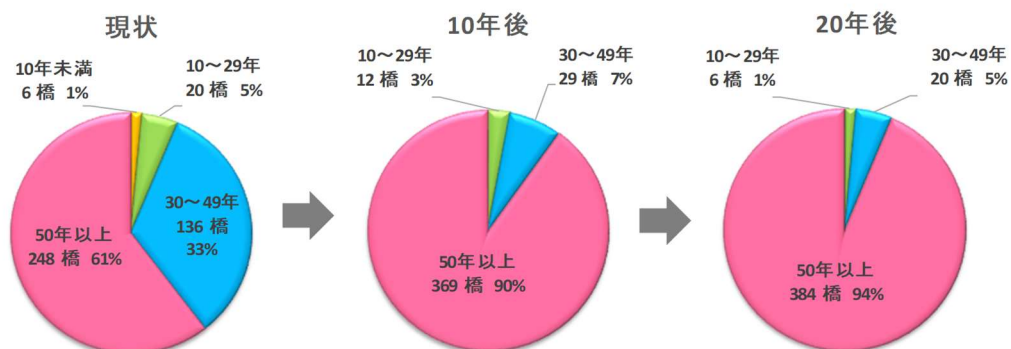
このような背景から、山武市ではこれまでの『損傷が大きくなってから補修する（事後保全的な維持管理）』から『損傷が軽微な段階で補修する（予防保全的な維持管理）』に転換することで、財政負担の縮減に努め、次世代に大きな負担をかけることなく、道路交通安全性と信頼性を確保することを目的に平成25年3月に「山武市橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、老朽化対策に取り組んできました。

その後実施した近接目視による橋梁定期点検が一巡したことから、令和元年12月に「山武市橋梁長寿命化修繕計画」の内容を更新し、更に前回の計画更新から6年が経過し、二巡目の橋梁定期点検が完了したことから、最新の点検結果に基づき『山武市橋梁長寿命化修繕計画』の見直しを行いました。

## ■ 橋梁の建設後の経過年数



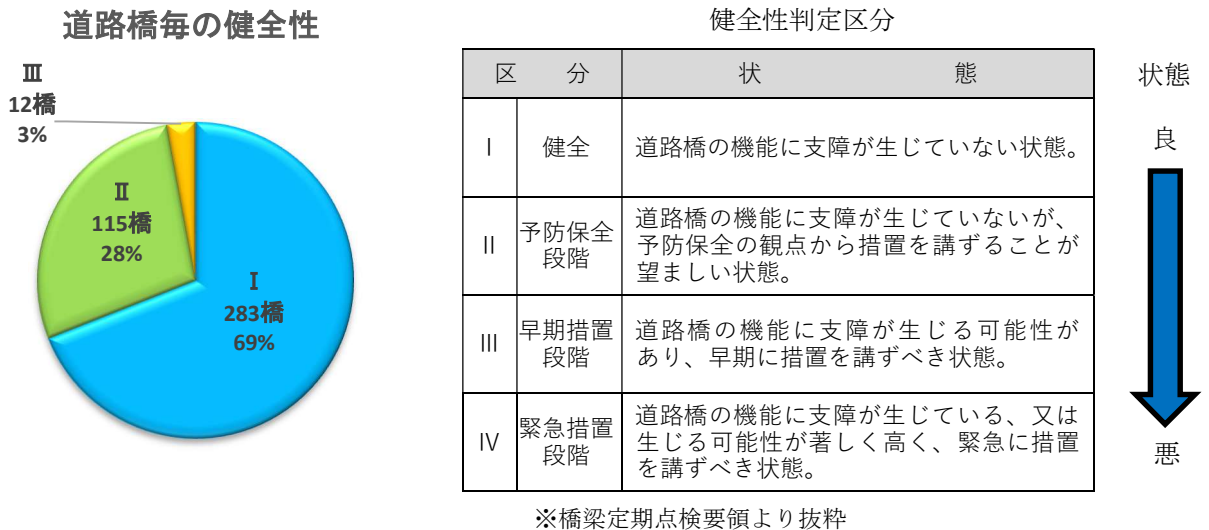
## ■ 建設後50年を越える橋梁数の推移



## 2. 山武市の橋梁の現状

山武市道に架かる橋梁は410橋あります。橋梁の現状把握は「橋梁定期点検要領（平成31年3月及び令和6年7月国土交通省 道路局 国道・防災課）」（以下「橋梁定期点検要領」）及び、最小限の方法、記録項目を具体的に記した「道路橋定期点検要領（平成31年2月及び令和6年3月国土交通省 道路局）」等に基づき行いました。

この調査により97%の橋梁においては健全性ⅠやⅡといった概ね健全な状態であることが確認されましたが、3%の橋梁で早期に対策が必要な深刻な損傷が確認されました。



### ■早期措置段階【健全性Ⅲ】の橋梁の代表的損傷



No40\_愛宕台2号  
(主桁) 剥離・鉄筋露出



No41\_堰土橋  
(主桁) 腐食、防食機能の劣化



No181\_胡摩手橋  
(床板) 腐食



No286\_田越2号橋  
(主桁) 剥離・鉄筋露出

### 3. 橋梁長寿命化修繕計画の基本方針

#### (1) 市道に架かる全橋梁を対象とした計画の策定

山武市が認定する市道に架かる全ての橋梁を対象とし長寿命化修繕計画を策定します。

#### (2) 道路交通の安全性・信頼性を将来にわたって確保

日常パトロールによる通常点検と、5年に1回を基本とする定期点検を計画的かつ継続的に実施することにより橋梁の状態を早期かつ的確に把握し、早期に維持修繕を実施していくことで、道路交通の安全性・信頼性を将来にわたり確保します。



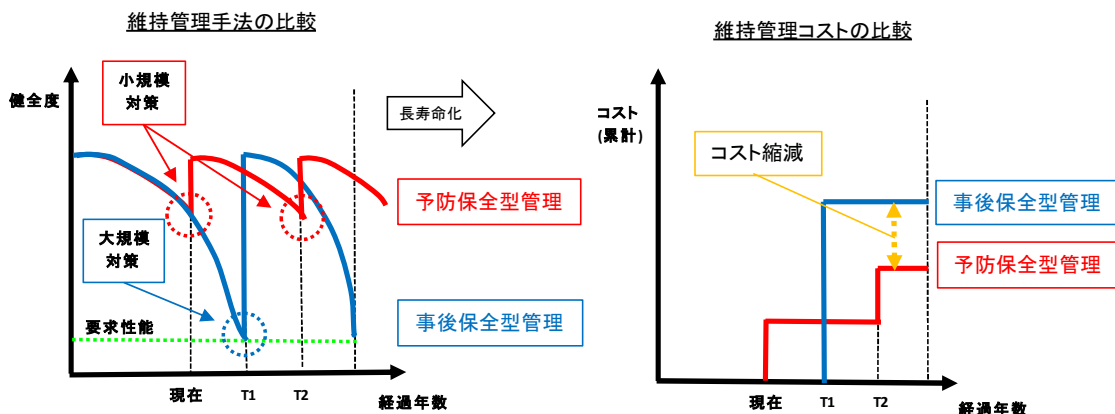
定期点検状況

#### (3) 予防保全型の維持管理

損傷が大きくなってから橋梁を補修する**事後保全型**の維持管理から、劣化の進行を予測し、損傷が深刻化する前に修繕を行う**予防保全型**の維持管理を計画的に行うことで橋梁の長寿命化を図ります。

#### (4) 維持管理のコスト縮減と予算の平準化

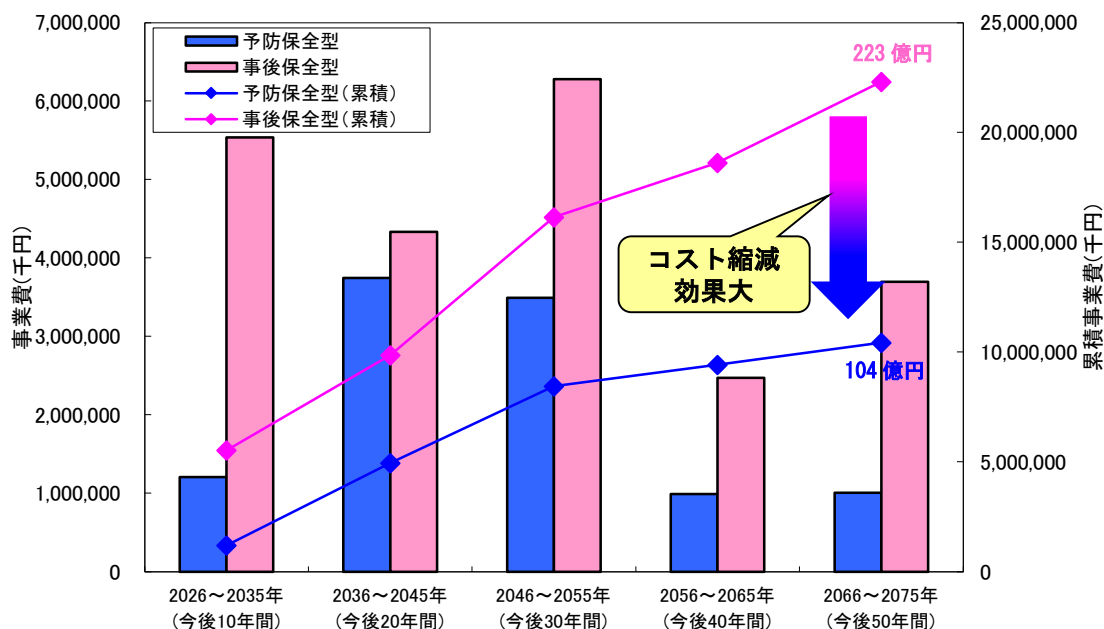
予防保全型の維持管理を今後も引き続き計画的に進め、維持管理費のコスト縮減と共に、財政負担が短期間に集中しないよう予算の平準化を図ります。



予防保全型管理による橋梁長寿命化のイメージ

#### 4. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する410橋について、維持管理方針の基本を「予防保全型」にした場合、今後50年間の事業費を「事後保全型」と比較すると、事後保全型の費用が約223億円に対し、予防保全型が約104億円となり、コスト削減効果が極めて大きくなることが分かります。



(注) 上記費用の算出については、今後、橋梁の点検データ蓄積や補修を実施していくことで、さらなる精度向上が図られるため、現在の値に固定化されるものではありません。

#### 5. 新技術等の活用及び維持管理費縮減に関する方針

##### ○新技術等の活用方針

橋梁における新技術等の活用は、定期点検の効率化や修繕等の措置における省力化及び費用削減が期待でき、限られた財源の中で橋梁の適切な維持管理を行う上でも重要であることから、新技術等を積極的に活用していきます。

この新技術等の活用方針を踏まえ、令和12年度までに早期に修繕が必要となる4橋の修繕工事において新技術等を活用し、約80万円の費用削減を目指します。

##### ○維持管理費縮減に関する方針

橋梁の維持管理を効率的に進めるため、各橋梁の役割や機能を再確認した上で、撤去することが可能な橋梁については、廃止や撤去等の統廃合に取り組みます。

橋梁の撤去については、利用状況を勘案し2橋の撤去を目指し、令和12年度までに撤去を行うことで、撤去後の維持管理費について点検費用のみの場合でも約66万円の費用削減を見込んでいます。

ただし、撤去の最終決定は、地域住民や関係機関等との合意形成が図られた上で実施します。

## 6. 橋梁長寿命化修繕計画に関する今後の取り組み

今回策定した計画は、道路法施行規則が改正し、統一的な点検や健全性の診断を示された後に、その点検結果と標準的な工法や単価、劣化予測手法などで試算したものであり、今後の財政状況、点検データの蓄積、補修の実施などにより、適宜修繕計画の見直し等も必要になってきます。

引き続き、5年に一回の頻度で実施する橋梁定期点検により、橋梁の損傷状況を把握して維持管理を適切に行うとともに、劣化予測手法などの妥当性を検証し、より精度の高い『橋梁長寿命化修繕計画』に基づいた、橋梁の効率的・効果的な管理に努めます。

また、橋梁の維持管理を効率的に進めていくために、人口減少や土地利用の変化や新たなニーズへの対応、財政力の変化などで、インフラに求められる役割や機能も変化していくものと考えられるため、状況に応じて橋梁の集約化や撤去などを進める取組が必要と考えられます。

山武市橋梁長寿命化修繕計画

令和8年3月 作成

問合わせ先

山武市役所 建設環境部土木課

〒289-1392

千葉県山武市殿台296番地

TEL 0475 (80) 1183 (直通)